小学校社会科における地域との関わりを見いだす授業づくり
―「未来へ伝えたい広野」を考える広野町物語を通して―

広野町立広野小学校　福島県教育センター　長期研究員　松本　哲幸

1　研究の趣旨

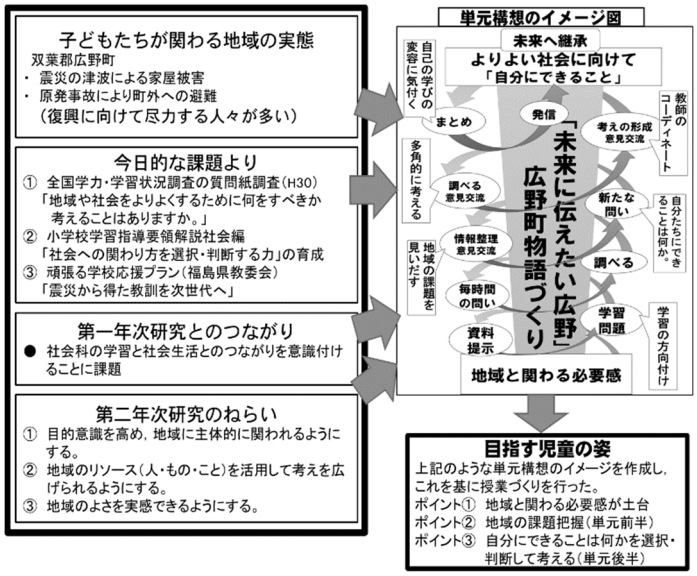
(1) 研究の趣旨

本研究は、小学校中学年における社会科の授業づくりに取り組んでいる。

研究協力校の広野町立広野小学校は、東日本大震災の被災地にあり、地域には復興に向けて尽力している方が大勢いるという地域の特性がある。

問いを解決するために町の方々から話を聞いたり、インタビューしたりするなど直接関わり、問いを解決する過程で、地域をよりよくするための取組について理解を深められるようにする。

そして、分かったことを基に、地域のために自分も協力したいと、地域と関わる必要感を高め、現実的に協力できることを選択・判断して考え、発信することを通して、地域の一員としての自覚を高められるようにする。



(2) 研究の仮説

小学校社会科において、以下の手だてを講じれば、地域の課題を把握し、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断できる子どもを育成することができるであろう。

【手だて１】　地域と関わる必要感のある問いの引き出し方の工夫
【手だて２】　地域の社会的事象を多角的にとらえさせる意見交流
【手だて３】　学びの変容に気付かせる思考の言語化

2　研究の概要

(1)【手だて１】地域と関わる必要感のある問いの引き出し方の工夫

地域の社会的事象を提示し、子どもの疑問を引き出すことで、子どもに地域と関わって調べたいという思いを抱かせる。さらに、資料や調査等によって地域の課題を把握した後で、「地域のために何とかしたい」という思いを抱かせ、地域の課題を解決するために自分たちにできることは何かを考える学習問題を設定する。

(2)【手だて２】地域の社会的事象を多角的にとらえさせる意見交流

子どもたちは、地域の方々と関わることを通して、その人の立場や働き、社会の仕組みについての理解を深めていく。この関わりを基に、学級全体で地域のために自分たちにできることを話し合うことで、自分とは異なる立場に立って、地域の社会的事象を考えられるようにする。

(3)【手だて３】学びの変容に気付かせる思考の言語化

毎時間、自分の考えをワークシートに記述し、思考を言語化する。これを広野町物語と名付け、累積していくことで、考えの深まりや変化を自覚させる。また、単元の学習の振り返りにも活用することで、自分の考えの選択肢を広げ、判断する材料を増やせるようにする。

3　研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○　子どもに、問いを解決するためには、どうしても地域の人に聞く必要があるという思いを抱かせたことで、地域人材と関わる目的意識を明確にもたせることができた。

○　分かったことを基に、地域のために今の自分にできることは何かを考えたことで、よりよい地域の実現を意識して選択・判断する力が高まった。

(2) 今後の課題

○　子どもたちにどんな社会的な見方・考え方をさせるかを明確にして、提示する資料を精選する必要がある。

○　子どもが自分の考えをもつ時間を確保し、互いに考えたことを話し合い、共有することを通して、その考えに至った根拠を明確にして発言できるようにすることが大切である。